

# 福島第一原子力発電所従事者の被ばく線量の全体概況について

---

2016年 6月 3日  
東京電力ホールディングス株式会社

# 1. 発災以降の放射線業務従事者の累積被ばく線量分布 (H23.3.11以降の累積線量)

区分(mSv)	H23.3～H28.3月		
	東電社員	協力企業	計
250超え	6	0	6
200超え～250以下	1	2	3
150超え～200以下	26	2	28
100超え～150以下	117	20	137
75超え～100以下	321	312	633
50超え～75以下	327	1,797	2,124
20超え～50以下	633	6,513	7,146
10超え～20以下	620	5,793	6,413
5超え～10以下	507	5,442	5,949
1超え～5以下	907	9,616	10,523
1以下	1,247	12,747	13,994
計	4,712	42,244	46,956
最大(mSv)	678.80	238.42	678.80
平均(mSv)	22.43	11.75	12.83

↓ 100mSv以下

↓ 50mSv以下

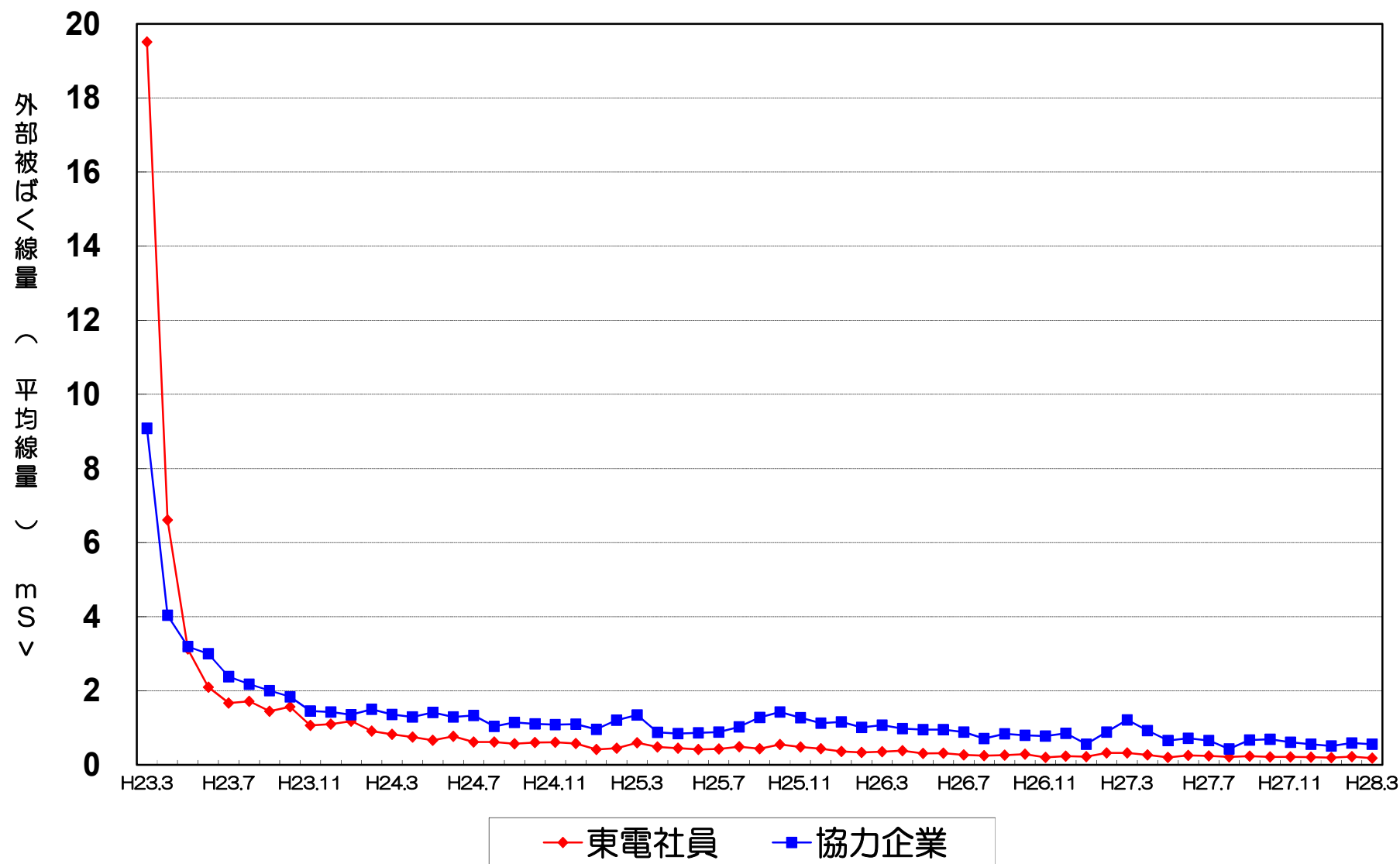
OH23.3.11からH28.3.31までに福島第一原子力発電所にて放射線業務に従事した作業者46,956名のうち

• 46,782名(99.6%)は発災後の累積線量が100mSv以下

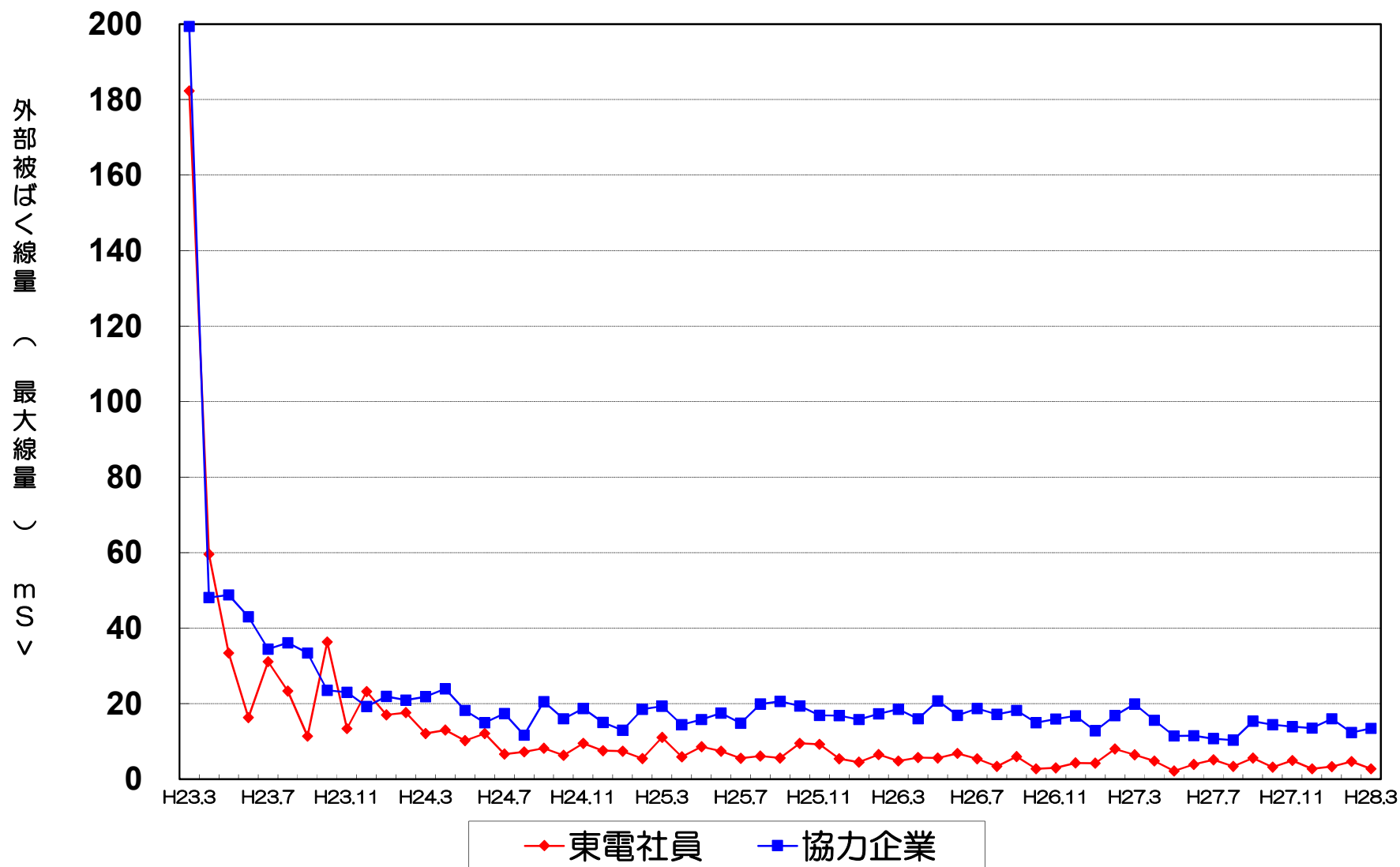
• 44,025名(93.8%)は累積線量が50mSv以下

※H28.3線量については、APDによる暫定値（以降のシートについても同様）

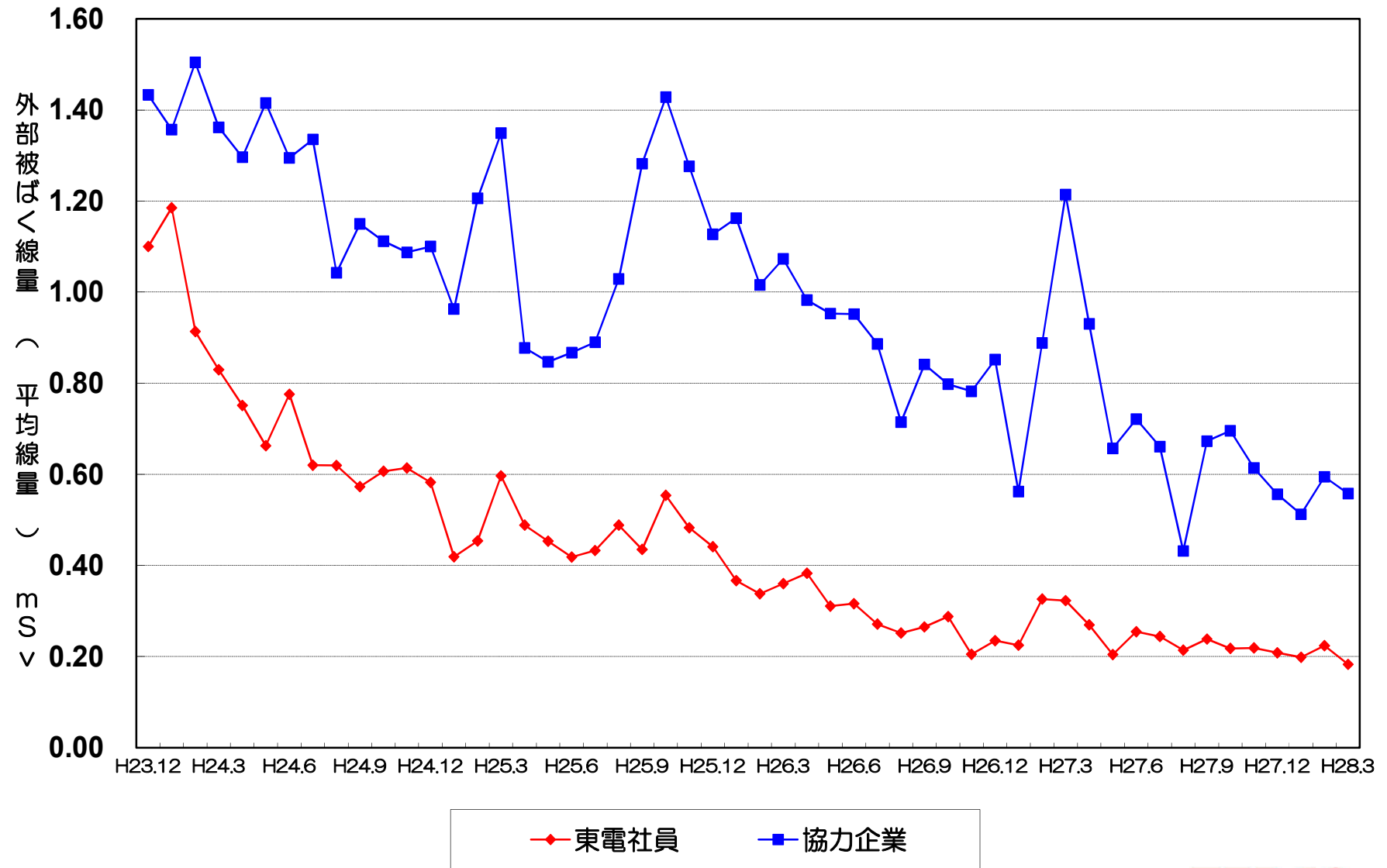
## 2. 発災以降の月別被ばく線量の低減状況(月平均線量)



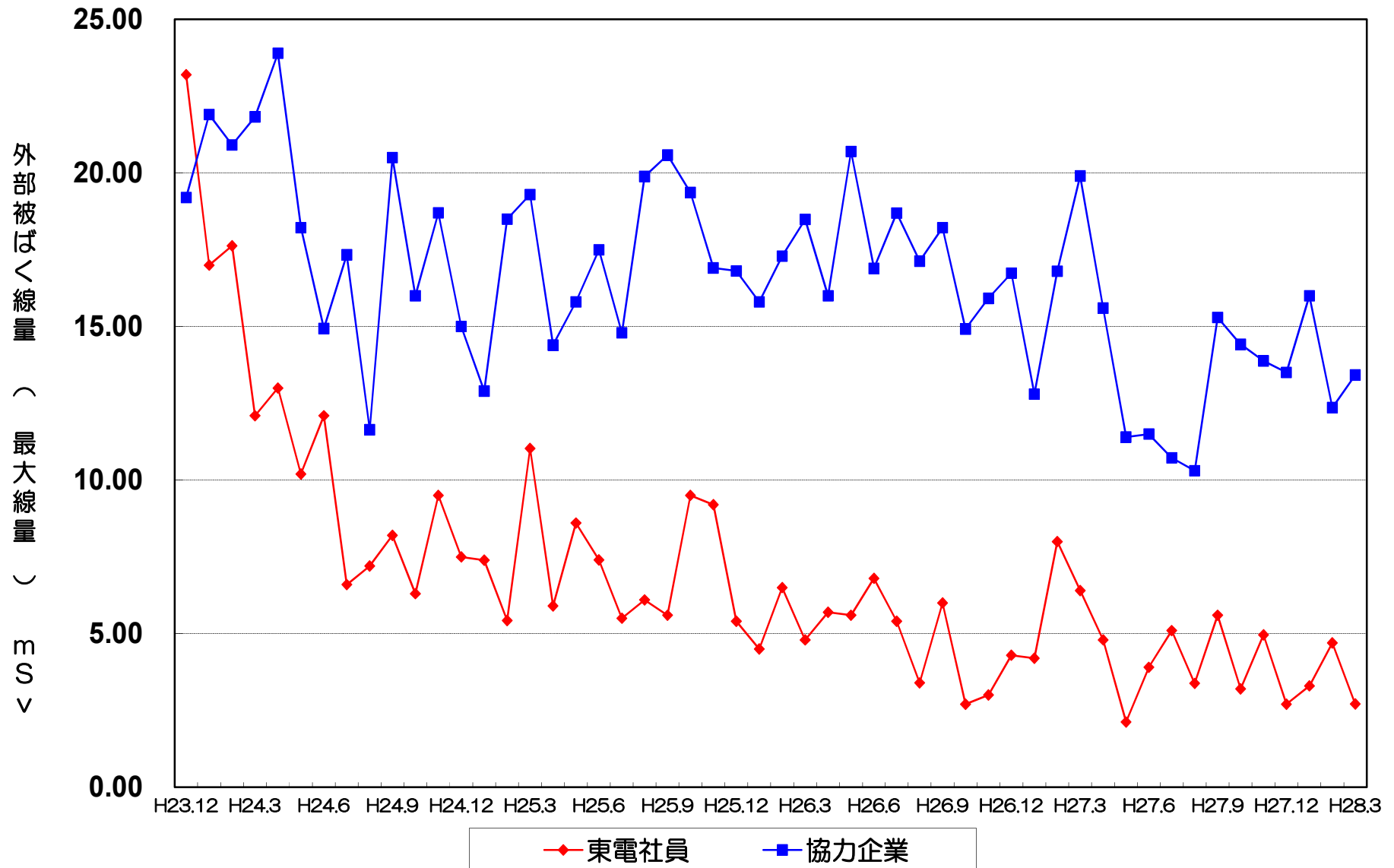
### 3. 発災以降の月別被ばく線量の低減状況(月最大線量)



## 4. ステップⅡ以降の線量推移(月平均線量)



## 5. ステップⅡ以降の線量推移(月最大線量)



## 6. 現在の状況 (放射線業務従事者の累積被ばく線量 H26年度分)

区分 (mSv)	H26. 4～H27. 3月		
	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0
20超え～50以下	11	996	1,007
10超え～20以下	60	2,598	2,658
5超え～10以下	158	2,775	2,933
1超え～5以下	637	5,314	5,951
1以下	822	7,359	8,181
計	1,688	19,042	20,730
最大 (mSv)	29.50	39.85	39.85
平均 (mSv)	2.30	5.29	5.04

○H26年度（4月～3月）に作業実績のある20,730名のうち

- 20,730名 (100%) は50mSv以下
- 19,723名 (95.1%) は20mSv以下
- 14,132名 (68.2%) は5mSv以下



○全ての作業員について被ばく線量は線量限度内(50mSv/年)で管理。

なお、一部の東電社員については、電離放射線障害防止規則第7条の緊急被ばく限度（100mSv）が適用される特定高線量作業従事者となっているが、特定高線量作業従事者についても通常時における線量限度(50mSv/年)を超える従事者は無かった。

## 6. 現在の状況 (放射線業務従事者の累積被ばく線量 H27年度分)

区分(mSv)	H27.4～H28.3月		
	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0
20超え～50以下	6	588	594
10超え～20以下	52	1,940	1,992
5超え～10以下	107	2,247	2,354
1超え～5以下	539	5,107	5,646
1以下	992	6,599	7,591
計	1,696	16,481	18,177
最大(mSv)	23.94	43.20	43.20
平均(mSv)	1.83	4.50	4.25

○H27年度（4月～3月）に作業実績のある  
18,177名のうち

- 18,177名（100%）は50mSv以下
- 17,583名（96.7%）は20mSv以下
- 13,237名（72.8%）は5mSv以下



○全ての作業者について被ばく線量は線量限度内(50mSv/年)で管理。

※一部の東電社員に適用していた特定高線量作業従事者については、今後の作業内容を精査し、50mSv/年の法令限度で管理可能と判断したため、H27.9月をもって届出を取りやめている。



## 7. まとめ

- 構内の環境改善（作業工法含む）により、線量当量率が低下していることから、それに付随して、従事者の線量状況も改善してきている。
- 一昨年度末から昨年度初めにかけて、凍土遮水壁工事やフェーシング工事等の大きな被ばくを伴う作業により、月平均線量および月最大線量とも高めで推移していたが、昨年度後半はフェーシングによる環境の線量率低下なども寄与して、月平均線量および月最大線量とも少なく推移している。
- 全ての作業者の被ばく線量は、線量限度内で管理されている状況。

引き続き作業環境の線量低減に取り組むと共に、作業者の方に継続的に従事していただけるよう、被ばく状況について今後も継続して注視していきたい。